

ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

フィリピンの教育制度改革 K to 12 の影響で、里子里親関係解消の事例



華陵高校の里子のフロディレンは、生徒たちから寄せ書きを受け取ったり、一人一人に返信したり、同年代の日本の子どもたちと交流して、双方にとって良き時間を共有してきました。しかし、6月からは、里子ではなく、家族や親族の支援で、隣のスララ町の私立ハイスクールで学ぶことになりました。2年後には、スルタンクダラト大学に進学して、将来はハイスクール英語教師になるという夢をかなえるための選択です。

なお、華陵高校 JRC の協力継続のお申し出に対しては、アンドレア(ラヒット小3年)の支援をお願いしました。

前号の SCMSI ジュニア・ハイスクール修了生(10年生)の進路リストの中で、家庭経済コースとお知らせしたフロディレン(華陵高校 JRC の里子)は、2年後の大学進学、そこで専攻の条件を満たすため、SCMSI のシニア・ハイスクール進学ではなく、他校への転校を選択したことが分かりました。ハイスクール段階での転出は、里子から外れるという SCMSI の決まりがあり、同じく進路リストで報告のコロナダルの市のハイスクールに転校のラッセルにも適用されます。フロディレンはなぜ SCMSI 校を去ることになったのか、現地訪問時に確認しました。

K to 12 改革に伴い、ハイスクール後期2年間(シニア・ハイスクール)で、各種職業コースか、大学での専攻に合わせたコースを選ぶ必要がありますが、SCMSI は施設や教員数などから、一部の職業コースと、大学での初等教育と地域開発専攻対応のコース(GAS)しか提供できないとわかりました。新制度が根付くまで、子どもたち、保護者はもちろん、私たち支援側も戸惑う場面がありそうです。

「進級しました！」ダバオ医学生 アン

SCMSI のハイスクールから MSU を経て、医学部に学ぶアン。レイクセブ町初のチボリ人医師として、地域に貢献することを目指していますが、去年は留年してしまいました。覚書では、留年は一回限りです。あとがありません。

以下は、6月2日付メールの抜粋です。

「3年に進級が決まりました！あの失敗を思い出す度にもっと頑張ろうという気持ちになれました。」

医学部の授業料他学校経費は、前期分だけで約30万円です。MSU在学時からの支援者、宮崎さんのためにも、がんばってほしいと思います。

JOFPA 基金奨学生 ゴルディ・マリー (2年) の手紙

5月21日にサマークラスが終わりました。難しい科目が多く、授業も月曜日から土曜までぎっしり詰まっていたが大変でしたが、5教科、9単位を取得できました。

6月14日には新学期が始まります。母子の健康に関するものなど、全部で9科目あります。32単位分です。病院実習も入るのでとても大変ですが、卒業、そして国家試験合格を目指して頑張ります。

看護師になるには知識に加えて、心構え、姿勢が大切です。生涯を捧げる仕事として選んだ看護師への道を JOFPA 奨学金で支えてくださる皆様への感謝は、言葉では言い尽くせません。神様のお恵みをお祈りいたします。(抄訳：山崎)

新学期が始まり、SCMSI 校からも新しいカレッジ奨学生や里子候補のプロフィール、写真が届きました

<外部カレッジで学ぶ奨学生候補>

<SCMSI レムエヘック小に入学した新1年生(名前はニックネーム)>

1) Jesse Kim Obando

Mindanao Polytechnic 大・船舶輸送科2年
父親は早く亡くなり、母親も定職がないため、アルバイトをしている。

2) Ryan Cayugan

NDMU ソーシャルワーカー科3年
両親の収入では授業料納入が限度で、その他の学校経費や下宿代支払いが厳しい。



Jilian

6人兄弟の長女

父親は労働者



Ayeng

5人兄弟3番目

父親はドライバー



Saysay

4人兄弟3番目

父親は農業



Honey

4人兄弟長女

父親は労働者

増えるカレッジ奨学金要請に応じて、カレッジ生支援会費の値上げ(現行3,000円)を含む対策を年度中に検討の予定です。